

第4回東北観光アドバイザー会議 議事概要

日時：平成28年3月31日(木)17:00~18:30

場所：東京都内

- ・第3回までの意見交換等を踏まえ、提言の内容について議論。
- ・各委員からの主な意見等は以下のとおり。

①雪を軸としたブランド戦略とブランドの複層化

- ・日本に来る外国人のニーズが多様化しており、重層的なブランディングは重要。農村体験やアニメなども含めて深い情報を発信していくことで、多様なニーズを捕まえ全体を底上げすることになる。
- ・観光は文化の交流。東北には伝統芸能が豊富。東北六魂祭のような取組を大事にすべき。

②地域の受入体制

- ・最終的には地域が頑張らないといけない。地元住民との連携は大きなキーワード。観光の重要性を住民にも説明していくことが必要。
- ・地元の通訳案内士の育成は良い取り組み。旅行者から地域との交流が求められる中で、言葉の壁を超えることにつながる。
- ・いかにベストプラクティスをつくれるか。成功事例を広げていくことで機運が高まる。ファムツアーは即効性があり、旅行会社の招請に支援をすべき。

③発信の工夫

- ・留学生は国と国をつなぐことができる存在。情報を伝える存在としてはブロガーよりも適している。
- ・一部で外国人により住みやすい地域を用意するなど、実際に東北に居住している外国人や留学生から情報を発信すると、公的な機関よりも説得力のある情報発信が可能。
- ・東北の観光に勢いを付けるためにも、思い切ったインセンティブの付与を予算措置することも必要では。まず体験してもらうことが風評被害の払拭につながる。

④予算の活用のあり方・実行の担保

- ・提言に沿った実行をいかに担保し、効果検証するかが重要。
- ・予算を東北6県に配分した後、どのように効果があったのかチェックすべき。また、東北6県が自県だけでなく、他県と連携する意識をもっていただきたい。
- ・自治体からJNTOの海外事務所への出向は、人材育成に加えてネットワークを構築することもでき、非常に有効。東北からの派遣は現在ほとんどなく、積極的に派遣していただきたい。
- ・市町村も観光復興で活躍できる場面があるとよい。市町村が監視役になることもでき、県だけで交付金を執行するよりも相乗効果が期待できるのではないかと。

⑤その他

- ・福島についての言及が増えており、決意を感じさせる内容になっていることを評価。
- ・本会議の提言がまとまり次第、東北6県に提言の趣旨を説明する機会を設けること。